

《2006年6月例会—出張サロン in フランクフルト報告》

サッカー・スポーツを通して21世紀の“ゆたかなくらしづくり”を目指すことを共通の“志”とする全国ネットワーク、「サロン2002」<<http://www.salon2002.net>>の6月の月例会は、FIFAワールドカップ開催中のドイツで開かれた。サロン2002の月例会は、通常は都内で開かれるが、年に数回、「出張サロン」と称して、全国のサロン会員のもとで開催し、視野を広げ、交流の輪を広げる機会としている。今回は、サロン史上初の、海外での開催となった。

＜第1弾—現地情報交換会＞

【日時・会場・概要】 2006年6月21日(水) 13:30～

フランクフルト市内パブリックビューイング会場他

【参加者(会員)】 牛木素吉郎(ジャーナリスト) 岸卓巨(中央大学3年) 古藤田信博(果樹研究所) 笹原勉(㈱日揮・北京駐在) 中塚義実(筑波大学附属高校) 藤田稔人(レフェリー) 前田博子(鹿屋体育大学)

【参加者(未会員)】 伊藤美奈子(埼玉県サッカー協会審判委員会/女子1級審判員) 本杉亀一(ビバ!サッカー研究会) 内田大三(早稲田大学2年/岸氏友人) 大島健太(岸・内田両氏がこの日の朝に出会った青年)

【報告書作成者】 中塚義実

【概要】

13:30 フランクフルト中央駅(Hbf= Hauptbahnhof)の11番ホーム入口集合。ただし中塚は、午前中のケルン大聖堂観光から帰ってくるため予約していたICE(ドイツ新幹線 Intercity expresszug。)に乗り遅れたため、1時間の遅刻(ごめんなさい)。その他の参加者はほぼ定刻にそろい、遅刻した中塚とは携帯で連絡を取り合った上で、駅構内のカフェで飲みながら待機・懇談。



ICE車内のオランダ人

ちなみに、中塚が改めて乗ることとなったケルンからのICEは、アムステルダム発。車内はオランダ人であふれかえっていた。「サッカーファンの皆様、朝5時発の特別列車を運行します」の車内放送があった時、オランダ人が一斉

に喚起の声を上げたのが印象的。この日のオランダvsアルゼンチン戦は、フランクフルトで21時キックオフ。



フランクフルト中央駅前

15:00 中塚到着(14:30)を待って、メイン川沿いのパブリックビューイング会場へ徒歩で移動。約30分の徒歩での散策の後、会場到着。メイン川のど真ん中に巨大スクリーンを設置して、川の両側から観戦できる(一方はスタンドが設置されている。もう一方は立見)という驚くべきつくり。しかもその周辺は屋台村で、お祭り空間となっている。すばらしい!

16:00からはポルトガルvsメキシコ。しかしオレンジ色がやたら目立つ。スタンドがある側の管理エリア内は混雑しているため、反対側へ

移動し、会場全体を把握する。



メイン川に設置された巨大スクリーン



本番前に、オランダvsアルゼンチンの、サポーターによる“サッカーゲーム”。いたるところに交流の輪がある。ここはお祭り空間。



巨大スクリーンをはさんで、メイン川の両岸が観戦エリアになっている。メイン側にはスタンドが設置されている。



ファンフェスタ入口。ここで手荷物検査がある

- 16:00 全体を把握したところで一時解散。すでに何度もパブリックビューイング会場を体験されている牛木氏と本杉氏は「ビバ!ハウス(活動拠点としているアパート)」へ、その他はスタンドが設置されていない側の管理エリア内に移動。前半は、そこで飲みながら観戦。
- 17:00 ずっと立ったままで疲れてきたし、管理エリア外(フランクフルト市の主催で屋台村ができてい)の様子も知りたいので、そちらに移動。とある屋台のテントに入ってさらに飲みながらテレビ観戦(熱心に観戦することはなく、会話が盛り上がっていた。盛岡から参加の古藤田氏、中国から参加の笹原氏とは久しぶりの再会。もちろん初対面の人も多く、ワールドカップとは無関係の、互いの近況に関する話題で盛り上がった)。
- 18:00 管理エリアの出口に再集合。すでに皆、結構良い気分。アップルワインで有名なザクセンハウゼン地区のレストランに移動し、全員で会食。このあたりの手配は、牛木さんとともにビバ!ハウスを拠点として活動されているカメちゃん(本杉氏)がすべて段どりしてくれました。感謝!

ここで改めて自己紹介をし、11人(ちょうど1チーム!)の氏素性を軽く把握した上で、アップルワイン(安い!)とソーセージ、ポテトやサラダといった定番料理(うまい!)で会話を楽しんだ。



レストランでアップルワイン。参加者一同で。



サポーターたちと

20 : 00頃 21 : 00からのゲームに備えて移動。移動中、オランダ人サポーターと10人ぐらいで円陣リフティングをやったのがおもしろかった。ここから先は、各自の志向や帰りの時間もあるので、それぞれで動く。

21 : 00 オランダvsアルゼンチン戦キックオフ。牛木氏は「ビバ!ハウス」、カメちゃん(本杉氏)はアルゼンチンサポーターの集まるパブで観戦(彼はアルゼンチンのユニフォームを着ていた)。その他はパブリックビューイング会場に再び移動するが、そのうちはぐれる。藤田・前田・伊藤の審判チームと中塚はともに動くが、会場周辺は大混雑。道路わきのホテル(らしき建物)のテラス上で前半を観戦。後半、遠方へ

の電車移動がある審判チームは駅へ向かい(ここで岸氏一行と再会したらしい)、中塚はとどまり、路上で各国サポーター(主にオランダ)と戯れる。

サロンのポロシャツに日本代表のバンダナという格好をしていたので、「ヘイ、ヤーパン」、あるいは「ナカータ、ナカムーラ、タカハーラ」と声をかけられる。オランダ人は「オーノー」の印象が強いようだが、「フジータ」や「ヒラヤマ」の名前も出てくる。

23 : 00頃 試合終了。大混雑。オレンジ色が圧倒的に多いが、水色と白の縦縞もいるし、「普通のドイツ人」と思われる人々も大勢いる。帰りながら、いたるところで交流の輪。メイン川の橋の上でオーストラリア人を見つけて声をかけたところ、彼らもノリがよく、近くにいたクロアチア人に声をかけ、「ブラジル人はおらんか?」と言っていたらブラジル人も来たので、「Fグループ!がんばろう!」と言いながら皆で写真をとった。いい写真ですよ(希望者にはお分けします?!).



メイン川の橋の上にて、「Fグループ集合!」

24 : 00頃 Sバーンの駅(Konstabrer-wache)に到着。ホームの上までオレンジ一色。交流の場、フェスタは車内まで続く。

Sバーンで約30分程度揺られ、「Raunheim」に着いた(ここが私の泊まっていたホテルのある町)のは1 : 00を過ぎていた。

<第2弾—スポーツクラブ視察>

【日時・会場】 2006年6月23日 (金) 9:00~

「TG ボーンハイム1860」クラブハウス他

【参加者 (会員)】 牛木素吉郎 (ジャーナリスト) 宇都宮みち子 (ビバ! サッカー研究会) 岸卓巨 (中央大学3年) 田中俊也 (三日市整形外科) 中塚義実 (筑波大学附属高校)

【参加者 (未会員)】 瀬田元吾 (デュッセルドルフ在住/学習院高等科・筑波大学卒) 本杉亀一 (ビバ! サッカー研究会)

【概要】

9:00 フランクフルト中央駅 (Hbf= Hauptbahnhof) の11番ホーム入口集合。Uバーン (地下鉄) でボーンハイム (Bornheim) 駅へ。そこから歩いて目的地へ。



この日の参加者。フランクフルト中央駅11番ホーム入口にて。

途中道に迷ったが、そのおかげで人工芝ピッチを持つスポーツクラブ「SG BORNHEIM」の施設に行き当たり、しばし視察。ここはサッカー部門 (男女) とダンス部門を持つクラブで、瀬田氏によると、サッカー部門は7部リーグ所属とのこと。「6月はどのクラブも、次のシーズンに備える期間です。戦力を固めることと、スポンサーを獲得して1年間の資金の見通しを立てる期間です」と語る瀬田氏自身、単身ドイツへ乗り込み、こうしたクラブに飛び込み訪問しながら自分のプレーの場を求めている。高校時代から教育実習まで、彼のあゆみを見てきた者として、このような再会がとてもうれしい。



SG BORNHEIMの入口。普通の住宅街から、いきなり現れる。



人工芝のピッチとクラブハウスがある。

10:30 あらかじめ依頼してあったスポーツクラブへ到着。この手配に関しては、牛木氏とともに、直接交渉に当たって下さった、フランクフルト在住の日本語教員、小松千鶴子さんに感謝!

クラブ名は、「Turngemeinde Bornheim 1860 e. v. (TGB)」。1860年創設の古い体操クラブで、サッカー部門は持たないが、近代的な施設

サロン 2002 月例会報告 (2006.6.21.&23.)

を持った総合型のクラブとして、体操、ダンス、フィットネス、水泳、あるいはフットサルや「壁面登はん」など、さまざまな部門が活動している。会員数は約14,000人。約1時間の見学は、トレーナーの方が説明して下さり、瀬田氏の通訳でさまざまな意見交換ができた。いただいた資料によると、1981年から、450人程度だった会員数を15,000人規模に拡大するための取り組みを開始し、今日ではHesse州で最大のクラブになったとのこと。



Turngemeinde Bornheim 1860 e. v. (TGB) のGYM



GYMの隣にフットサルコートがある

この時間帯は、成人の体操教室が行なわれていたが、クラブハウスの外壁では、地元の消防士10名ほどが、訓練のために壁をよじ登っていた。いろんな利用のされ方があるのだと感じた。



体操教室の様子



地元の消防署が、壁面登はん (Klettern) の訓練を行っていた。



トレーナーの方と (左端が通訳の瀬田君)



整然とした町並み。ストリートサッカーのできるところとできないところがあるようだ(クラマーさんの嘆きが聞こえる)。

12:00頃 ボーンハイム駅前にて昼食。ソーセージとポテトとサラダとビール。定番です。

瀬田氏お勧めは「ニュルンベルガー」という小ぶりのソーセージ。うまい!

13:30頃 中締め。

牛木氏とカメちゃんは「ビバ!ハウス」へ戻り、その他はフランクフルト中心街へトラムで戻る。16:00からのパブリックビューイングま

では若干時間があるので、それまで三々五々過ごすことにして解散。瀬田氏はデュッセルドルフの自宅へ、宇都宮さんはビバハウスへ、岸・田中・中塚は、それぞれショッピング等を楽しんだ。

16:00頃 岸・田中・中塚の3名、再びパブリックビューイング会場で合流。16:00からのゲームでウクライナがチュニジアに勝ったゲームを、スタンドに座ってゆったりと観戦。天気もいいし最高!

18:00頃 試合終了後、先日も出かけたザクセンハウゼン地区へ行き、夕食を楽しむ。前回とは別の店に入ろうかと、あたりを1周したが、結局同じレストランに。店の前にテーブルを出して、半分路上で(テラスで)食する風情がいい。



ザクセンハウゼン地区の様子

20:00頃 21:00のゲームはそれぞれで観戦することにして解散。夜行でアムステルダムへ移動する岸氏はフランクフルト市内で、田中氏は市内のホテルへ戻り、中塚はRounheimのホテルに戻ってテレビ観戦することにした。

以上

<その他>

この他、6月22日(木)の日本vsブラジル戦の競技場観戦の話、競技場のすぐそばにある「TSC Eintracht Dortmund von 1848/95」とは何かという話、そこでサロン会員の池田誠剛氏、ライブチヒ・スポーツ科学交流協会の高橋日出二氏、USAのGoodwin World Corporationの有田けんじ氏にお会いした話(田中俊也氏も合流)など、いろいろありますが、それらはすべて7月13日の月例会で報告します。

また、それぞれのワールドカップ体験は、MLに投稿していただくと良いかと思います。

(この部分、サロン会員へのEメールよりそのまま引用)

参考 : Turngemeinde Bornheim 1860 e. v. (TGB) 概要

(2006年6月23日のクラブ訪問および配付資料より作成)

【歴史】

1860年創設。

【会員】

11,345人(2005年1月1日) → 13,892人(2005年8月24日)

2006年6月現在、約14,000人の会員がいる(ヘッセン州では最大規模)

47の部門に、148のスポーツグループが属している

【会費】(1ユーロは約150円)

入会金(最初に払う) : 9ユーロ

月会費 … Adult: 9ユーロ

Children: 7ユーロ

Family: 20ユーロ

Fitness-Club: 30ユーロ

Aqua sports Fun: 3ユーロ

Aqua Sports Fun with sauna: 10ユーロ

【施設整備の状況】

1990年 … フィットネスジム(200平方メートルに65の設備)

1999年9月 … GYM1 開所(100平方メートルのホール)

2002年1月 … GYM2 開所

2003年5月 … Gartenbad Fechenheimの水泳プール管理委託をフランクフルト市から受ける
→ 水泳とサウナを日常的に楽しめるようになる

2005年9月 … Sportcenter Bornheim(SCB)(1167平方メートル)

【スタッフ】

フルタイム17名、パートタイム33名、実習生1名、徴兵義務の代替措置としての地域サービス員3名、1年間の非常勤1名、それ以外に100名のトレーナー(時間給)

【特徴】

- ・14,000人の会員は、全ての施設を使うことができる
- ・利用に関しては、必ず登録が必要。ビジターの個人利用は受け付けない。
- ・スポーツセンターは去年できたばかり。このほか別のところにプールと体育館がある
- ・託児所あり。2~3年前からサービスを提供している(母親が参加しやすいようにこのような施設を設け、人を配置してサービスしている)。
- ・ジムは、最初は予約して、トレーナーと一緒にプログラムを組んでひと通り説明を受けながらのトレーニング。慣れてきたら一人でやってもかまわない
- ・1981年から、450人程度だった会員数を15,000人規模に拡大するための取り組みを開始し、今日ではHesse州で最大のクラブになった。GYMの拡大・改善だけでなく、スポーツプログラムの質の向上に継続的に取り組んで来た成果である。
- ・80年代半ばは20部門・グループが週にのべ160時間活動するだけだったが、今日、47部門、148グループが、週あたりのべ620時間活動するクラブに拡大している。
- ・80年代半ばに体育館の増改築のために、100万DM以上を投資した。
- ・1990年からは、地元の2つの学校と提携。

(文責 : 中塚義実)